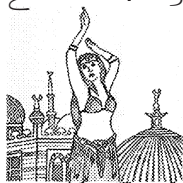


8月に「9月から短期プライムレート一斉に引き上げ」というニュースが流れました。「長い間金利がなかったような世界やつ



ニッポン経済・子一様

(802)

金利のある世界

化真ただ中。預金にしても融資にしても、常に金利を意識せざるを得ない時代でした。その後「金利がなかったような世界」

が長らく続き、費削減はやむを得ないことでしょう。その結果、金融機関は中小零細企業に目が届かず、本来の目利き力が減退したと感じるのは私だけでしょうか。

ば、預金獲得が再び重要な時代になると思われます。

そうならば、従前とは違う形とはいえ店舗やネットなどのチャネル戦略が改めて重要になるでしょう。その結果、金融機関と中小零

たな」と
思いまし

たが、それもそのはず。17年半ぶりの短プラインき上げだとか。

新人時代は、金利自由

その間に金融機関の合従連衡、

店舗統廃合が進んだのは周知の通りです。

融資と預金の利ざや

が縮小すれば、店舗統廃合をはじめとする経

金利が上がれば金融機関の収益改善に寄与するものの、住宅ローンなど経済にマイナス影響という論調もある

ようです。

しかし見方を変えれ

細企業のコミュニケーションが進み、金融機関本来の目利き力によって中小零細企業支援が強化される！

という時代が来てほしいな、などと思ったりしています。(大国主)

ています。(大国主)